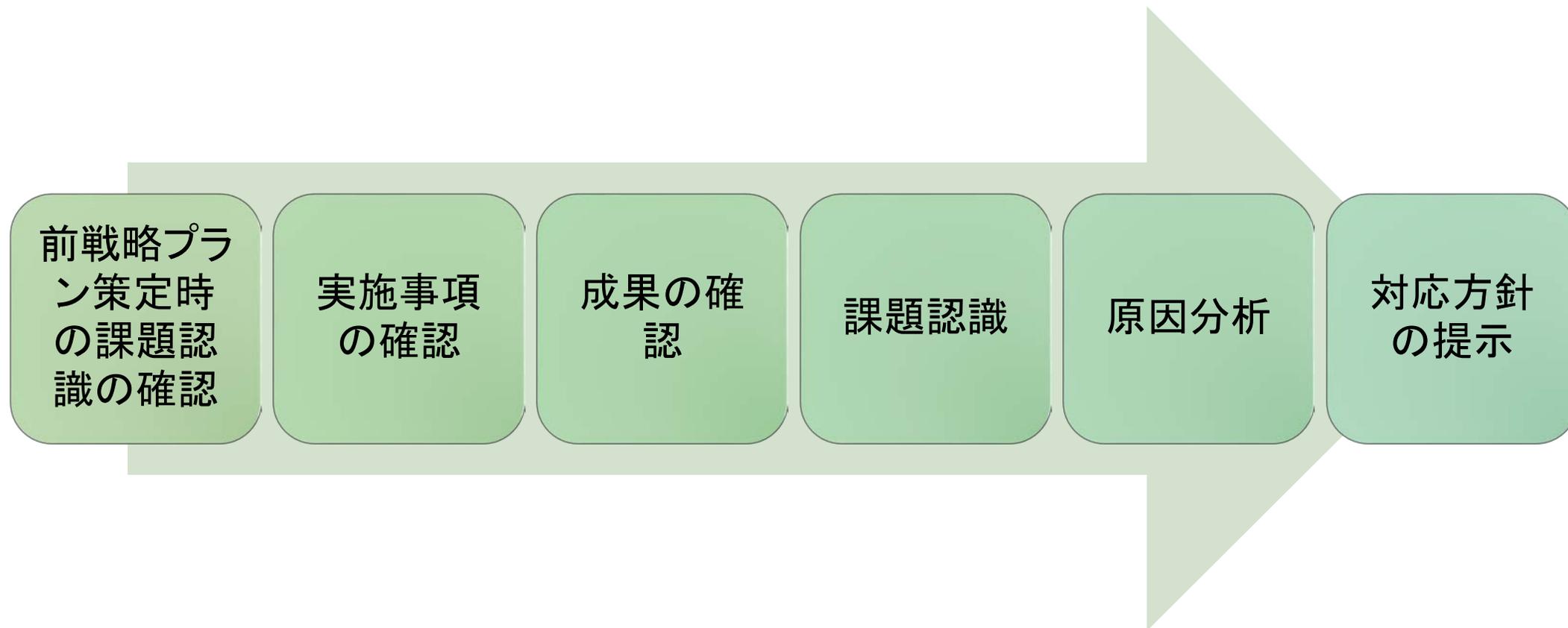


2. 前戦略プランの実績及び課題



(1) 前戦略プラン策定時(2012年10月)の課題認識

H19版からの見直しに際して示された「課題」

- 新技術等を導入することに主眼が置かれ、ともすれば研究成果が必ずしも国民の安心・安全につながらないものも見受けられたことは重要な課題
- 組織の強化などにより推進体制を強化すべき。
- 東日本大震災により新たに became 多くの課題への対応や高齢化や国民意識の変化等による社会構造の変化を踏まえた課題設定が必要。

(2) 実施した事項

研究開発環境の整備

- 消防研究センターに新たに設けられた「研究企画部」を通じ、産学官連携、広報等の体制を強化した。

研究開発

- 消防研究センターにおいては、中期計画に基づき、研究開発を推進した。推進に際しては、毎年成果等の確認を実施した。
- 消防研究センターで対応が難しい研究課題については、競争的資金を活用した研究開発を実施した。なお、競争的資金制度に低額で応募できる枠を設けて研究開発のすそ野の拡大を図った。

(3) 評価と対応

ア 研究開発環境の整備

実施事項

- 消防研究センターに新たに設けられた「研究企画部」を通じ、産学官連携、広報等の体制を強化した。

成果

- 産学官の連携や他省庁との連携による研究開発が複数実施され、成果につながっている。

課題

- 研究開発分野が広がっており、全体としての方向性がわかりにくい。
- 政府全体として、関係省庁が分野ごとに連携して効率的に成果を得ることが求められている。

分析

- 研究開発の全体像について定期的に方向性を確認する必要があるのではないか。
- 関係省庁・機関との連携をより進める必要があるのではないか。

対応

- 研究開発の方向性を明確に示すとともに、定期的に方向性を確認・補正するための仕組みを構築する。
- 関係省庁・機関との連携・情報共有を効率的に行える体制を構築する。

(3) 評価と対応

イ 消防研究センターでの研究開発

実施事項

- 中期計画に基づき、研究開発を推進した。
- 推進に際しては、毎年成果等の確認を実施した。

成果

- 消防研究センターの実施した研究開発の多くについて成果の社会還元が行われた。

課題

- 社会実装を実現した研究開発課題において、その円滑さにはばらつきが見られた。

分析

- 消防研究センターとしての研究と、社会実装に向けた開発をどうつなげるのか、整理が必要ではないか。

対応

- 製品開発に関する研究開発における消防研究センターとしての役割を、知識体系の構築を中心とすることとし、製品開発に対しては助言をする立場とするよう、整理してはどうか。

(3) 評価と対応 ウ 競争的資金を活用した研究開発

実施事項

- 消防研究センターで対応が難しい研究課題について、競争的資金を活用した研究開発を実施した。
- 低額で応募できる枠を設けて研究開発のすそ野の拡大を図った。

成果

- 競争的資金を活用した研究開発において、研究開発のすそ野の拡大が進んだ。
- 社会還元につながったと評価できるものはごく少数であった。

課題

- 消防機関の参画によるニーズの拾い出し、幅広い研究開発者の参画といった成果は得られている。
- 社会還元につながる成果が十分に得られているとは言えないため、その点については見直しが必要。

分析

- 研究開発成果を消防機関や研究機関にアピールできていないため、活用の動きにつながらないのではないか。
- 最終製品とするための研究開発に対しても支援が必要なのではないか。

対応

- 研究開発の成果・進捗状況等を広く示し、評価を得ることができる仕組みを構築する。
- 研究開発成果の事業化を支援するための人的・資金的支援体制を構築する。